愛媛大学医学部第二内科
同窓会ニュース
平成26年１月 No.44

巻頭言

南宇和20年

愛媛県立南宇和病院　鶴　岡　高　志

平成５年に濱田希臣先生より南宇和病院への転勤を依頼されてから20年勤務し平成25年４月から病院長に就任しています。愛媛県の南の果てにある病院で若い先生には敬遠されていますが少し病院の紹介をさせていただきますと、戦後の昭和21年４月日本医療団南宇和病院として発足し昭和23年６月に日本医療団から継承し県立南宇和病院として県に移管されています。昭和32年には内科・小児科・外科・産婦人科・眼科・耳鼻咽喉科の６科で一般病床61床結核病床64床となっていたようです。その後呼吸器科・放射線科・整形外科を追加し一般病床154床結核病床16床となっていましたが、平成４年に新築移転し脳神経外科・泌尿器科・皮膚科・麻酔科を追加し一般病床200床となっています。平成14年から一般病床199床とし、平成14年には23人いた常勤医がどんどん減少し今では８人となり稼動病床を120床とし県立中央病院・愛媛大学医学部・市立宇和島病院・南宇和郡医師会の先生方の支援でなんとかやっています。昭和47年３月10日より救急告示病院の指定を受けこの地域の唯一の総合病院として救急患者の受け入れもしていましたが常勤医の減少に伴い市立宇和島病院・幡多けんみん病院・県立中央病院への搬送も増加しヘリコプターでの搬送をお願いしたりもしています。最近では病棟の平均年齢が80歳を超えたり100歳以上の方が入院することもありますが、いろんな疾患を持った患者さんがいますしこの地域にはなくてはならない病院だと思っています。赴任当時はナイトショップが１件あっただけで夜中に食べに行くところもなかったのですが今ではコンビニエンスストアもあり夜も明るくなっています。しかし人口の減少・高齢化に伴い飲み屋は減ってきたように思います。病院の横の川（僧都川）には鮎・川蟹・手長エビ・うなぎもいますし梅雨前にはホタルも飛んでおり天気が良ければ流星群・彗星も綺麗に見えました。最近はあまり行けませんが磯釣りで

は全国的に有名なポイントがあり、かつおだけでなく魚の刺身もとても美味しく蠣も大きく育っていてイノシシやシカの肉も食べることができます。また車の通行量が少なく快適にランニングもできます。最近は忙しくて体重も増え気味ですが研修医の先生が地域医療を学びに来られていますので何とか田舎の楽しさを伝えられたらと思い頑張っています。今後のご支援をお願いいたします。

「お仕事終えて日はくれて」―その2―

日和田　邦　男

大多数の同級生と共に卒業50周年を祝えることは本当に幸せを実感しています。私自身以下の疾患を体内に宿していますが，自覚症状はありませんので普通の生活をしています。僧房弁閉鎖不全症，脳動脈瘤，多発性腎嚢胞，高血圧，脂質代謝異常などです。卒業40周年の「雑記帳」に「お仕事終えて日は暮れて」と題して，定年退職直後のまだ薄明りが残る頃の生活を書きました。時間の進むのは速く，あれから既に10年が経過してしまいました。

任意団体の日本高血圧協会（会長荒川規矩男先生，福岡大学名誉教授）が2006年４月から活動を開始していましたが，2007年４月にその事務局長を拝命し，高血圧学会の事務員１人と私の２人で事務を取り仕切ることになりました。たまたま2007年４月に事務所としていた内科学会の建物から追い出され，私の自宅に事務所を移しました。これを機に日本尊厳死協会の評議員（愛媛県支部理事）を辞退し，ボランティア活動（無給）は高血圧協会の仕事１本に絞りました。そして2008年８月には任意団体からNPO法人日本高血圧協会としました（会長は理事長，私は専務理事と名称変更）。引き続き認定を目指して組織の整備を図り，晴れて2012年７月に国税庁から認定NPO法人の認可が得られました（申請の準備を始めてから１年８か月かかりました）。認定NPO法人になりますと，協会へ寄附していただいた寄附金の約半分が所得税から控除されます。NPO法人は全国に４万以上ありますが，私共の協会が認定NPO法人に認可された段階では270余しかありませんでした。現在わが国の高血圧患者は4,300万人と推定されており，協会としては，高血圧発症の予防（生活習慣の改善，主に減塩と運動など）と高血圧患者の正しい治療を目指して活動を展開しています。現在の主要な活動は，１）全国各地での市民公開講座（今のところ年間50回程度），２）全国主要病院（324病院）の院内食の食塩含有量の調査研究，３）広島県，和歌山県における減塩，低カロリー食メニュウのあるレストランの拡大，４）１年分の家庭血圧測定記録用の血圧手帳の配布，５）特に「世界高血圧の日」５月17日（日本の高血圧の日）に世界高血圧連盟への協賛事業として，JR山手線の電車の貸切（車内で高血圧教室を開催）とか，全国の有名人（中でも坂本龍馬）の銅像に血圧マンシェットを巻く行事など，国民に高血圧に関心を持ってもらう行事を開催してきました。これらの行事はマスコミの関心を引き，当日NHKの午後7時のニュースや全国紙の新聞でも取り上げてくれました。協会としての初期の目標は達成されたので，定款を変更し，私共年寄りは役員から引退することに決めました。それで，私も今年の８月31日で専務理事から解放されまし

た。幸い事務所も本年１月31日付で私の自宅から大阪市に移っています。

さて，これから本格的な夜を手探りで歩まねばなりません。このことだけは生前にやり遂げておきたいというぬぼれたテーマは持ち合わせていません。正直にいえば，精神的にも肉体的にもたいして苦しめられずに平平凡凡と１日１日が過ぎて行けば幸運である，というのが現在の心境です。ただ一つだけ，中国の大連医科大学との交流が残されています。今年の６月上旬にも訪問し，大連高血圧フォーラムで簡単な講演をしてきました。私が希望した訳ではないが，再度５年間の客座教授（visitingProfessor）の辞令をもらった。過去15年余客座教授を務め，年に１，２回は大連を訪れてきた。今年は講演の後で，旅順の先端にある小高い山，老鉄山に登り，そこの展望台から渤海と黄海が交わる所が一直線に見えました。不思議な自然現象です。渤海の海水が黄色に見え，黄海の海水が青く見えます。渤海は汚染が激しく，渤海産の魚や海産物は食用禁止だそうですが，中国の事ゆえ，その日のうちに腹痛や下痢が起こると言うわけではないので，安い食堂などでは渤海でとれた魚貝類が料理に出されていることでしょう。放射能をもった魚貝類よりはましか。

中国では１つの大学，２つの医学院から名誉教授の称号をもらっているが（愛媛大学あるいは医学部と姉妹校を締結したことに対する先方のお礼か？），最近はいずれの大学へも訪問することも無く，また先方の大学から愛媛大学への研究者の派遣もほとんど無いようで，ご無沙汰状態です。大連医科大学からはそれでも私がいた教室などに研究者は来ています。特に昨年の尖閣列島の国有化による中国政府の反発で，例年の年賀状の交換もとだえ気味です（禁止というか自粛の指令がそれぞれの機関にあったのではないかと思われます）。ただし，今年の春節頃から，正式な機関から日本へ手紙を出してもよくなったようです。これはあくまでも私の推測ですが。

先回，わが国の30年先，100年先を大変悲観的に書きましたが，取りあえずのところは何とか踏みとどまりデフレ脱却に向かいつつあるようです。成熟した国を維持発展させていくにはそれに必要なエネルギーが必須であることはいうまでもありません。不幸にもわが国には化石エネルギー資源が乏しく，石炭，石油や天然ガス，シェールガスをどこかの国から輸入しなければならない。ところが最近の報道によれば，日本近海，特に静岡県から九州沖にかけて（これは東海・東南海・南海地震の想定されている南海トラフ）メタンハイドレートが大量に埋蔵されているようです。推定では日本の天然ガス使用量の約100年分ともいわれている。採算性のとれる採掘技術の開発が大いに期待されます。中国は100年先を見越して世界中の化石エネルギー資源の確保になりふり構わず狂奔している。ここで私達が避けて通ることができない熟慮すべきことは，エネルギー源としての原子力発電の問題です。日本には世界第３位の54基（福島第一の４基は廃炉）の原発があるが，私達には以下の選択肢が提示されている。１）直ちにすべての原子炉を廃炉にする，２）2030年前後をめどとして，順次使用年限が

来た原子炉から廃炉にし，最終的に原発をなくす，３）現状に近い数の原子炉を将来とも稼働させる。どの選択肢を選んでも，非常に長寿命（10万年）の放射性廃棄物の処理の問題に遭遇せざるを得ない。フィンランドやスウェーデンでは地中深い岩盤の中に漏れ出さないように処理した廃棄物を捨てている。地震が多発する日本のどこにそんな場所があるのだろうか。この問題の解決策として一つの光明があるようだ。私自身もその詳細は分からないが，加速器駆動核変換システム（ADS）を開発して，高濃度の核廃棄物に中性子を当てて短寿命（数百年）のものに変えてしまう。現在ベルギーがこの装置に積極的に取り組んでおり（日本からも留学生を送り込んでいるようです），2016年にはADS装置の着工を目指していて，このプロジェクトがうまくいけば，2022年から運転できるようです。わが国のADSの研究ではベルギーの10倍のスケールのものを計画し，2050年を１つのターゲットとして研究が進められているようです。このころ私達は生きていないが，ただただ成功を祈るのみです。このADSに関する知識は岸田一隆著「ボクらのエネルギーつてどうなるの!?」エクスナレッジ社（1,400円）から得られました。70歳を超える年寄りにも読みやすく，理解しやすい本です。是非皆さんにも一読をお勧めします。記念誌作成のお世話をいただいた木村弘子先生に深謝します。

本雑文は「大阪大学医学部卒後50周年記念誌」（平成25年10月刊）に掲載されたものである。

学 会 記

AHAに参加して

愛媛大学大学院　循環器・呼吸器・腎高血圧内科学　櫃　本　竜　郎

2013年11月16日から11月22日までアメリカのダラスで開催されたAHAに参加させて頂きました。

愛媛大学からは檜垣實男教授，大木元明義先生，井上勝次先生，藤井 昭先生，手束美香先生，諸藤徹先生，櫃本が参加しました。

僕たち３年目医師は今回が人生初の海外学会への参加になります。
ダラスと言えば，ジョン・Ｆ・ケネディ大統領が凱旋パレード中に暗殺された場所として有名ですが，他はというと，NBAのマーベリックスの本拠地であり，３日目の夜に念願のNBAを観戦ができたことに感激しました。

到着日の夕食は檜垣教授に御馳走になり，サラダ，ステーキ，デザートすべてが美味かつビックサイズで，町でBMIが高めの人達を多く拝見するのも納得でした。
AHAの会場はホテルから１㎞程度と，天候にも恵まれたこともあり，ダラスの雰囲気を肌で感じるにはちょうどいい距離でした。

３年目の僕たちは，ただただ会場のスケールの大きさに圧倒されました。僕個人としては，《New Strategies for Atrial Fibrillation Patients : Rhythm and Thrombosis》を拝聴しましたが，内容は大変難しく，部分部分の内容を理解するので精一杯でしたが，世界の循環器のトップの方々に囲まれて非常にモチベーションが上がりました。

４日目の朝は朝５時に起きて，AHA主催のFun Run/Fun Walkに参加し，大木元先生，諸藤先生，櫃本がFun Run（５㎞），手束先生がFunWalk（１mile）に参加し，４人とも無事完走しました。

様々な国籍の方々が，それぞれのペースで最後まで走りきる事が重要であるこのイベントで，僕は最初に飛ばし過ぎてしまい，後半気分不良により立ち止まるという大失態をおかしてしまいました…。
小学生のとき，マラソン大会で，「昨日全然寝てなくて体調最悪なんだ，一緒にビリになろーよ」と言って全速力で走る人いましたよね。いわゆるあれです。

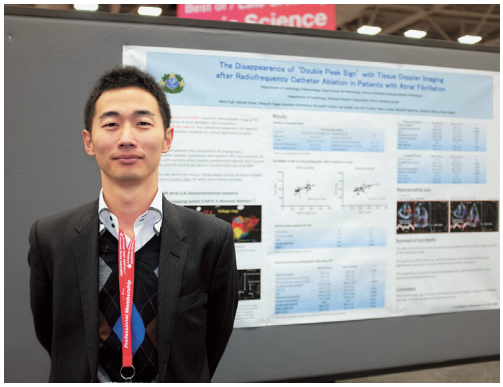
昼の空いた時間には，ダラスで最も有名な場所である，ケネディ大統領が暗殺されたダウンタウンのElm Streetに足を運びましたが，50回忌ということもあり，暗殺された11月22日を前に現場は工事中であり，有名な【×】印は見えませんでした。

今回学会では藤井昭先生が《The Disappearance of “Double Peak Sign” With

Tissue Doppler Imaging After Radiofrequency Catheter Ablation in Patients With Atrial Fibrillation》でポスター発表され，日本，外国の方を問わず，多くの医師がポスター前に来られ，熱い討論が繰り広げられました。

いつか自分もこの場所で発表をする側になれたら…，いや，なるために日々精進したいと思います。けしてFun Runの時のように立ち止まらないように…。入局して１年目が半分以上経過し，診療に学会発表に外病院の当直にと慌ただしく日々が過ぎていきますが，その中でも常に世界の流れを視野にいれて，一症例一症例向き合っていけたらと思います。

最後になりましたが，このような機会を与えたくださった第二内科の先生方に深く感謝申し上げます。本当にありがとうございました。



学 会 記

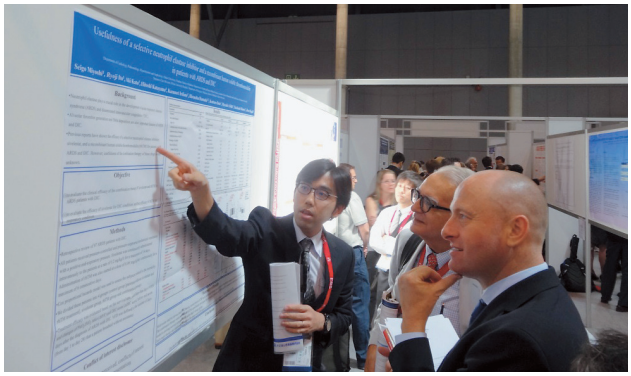
ERS2013学会記

愛媛大学大学院　循環器・呼吸器・腎高血圧内科学　加　藤　高　英

2013年９月７日～11日までスペイン・バルセロナで開催されたERS annual congress 2013に参加させていただきました。今回は片山均先生の引率のもと，実に5年連続の発表となる三好誠吾先生，そして私加藤の３名での参加となりました。片や初めてのバルセロナで何でも写真を撮りまくる通称：パシャ男の私と片山先生に対して，三好先生は2010年以来２回目でしたので，終始呆れられながらも和気藹々とした充実した毎日でした。

私は今回初の国際学会への参加でしたが，まず会場の広さと参加人数に圧倒され，また各国の先生方の多種多様な服装は，学会にはスーツで参加することが当然と思っていた私には斬新に映りました（自分もRegistrationの日は私服でしたが…）。

三好先生の発表は３日目でした。発表前には企業ブースを回って緊張をほぐしておりましたが，馴染みの薬に加え，本邦にはない組み合わせの吸入合剤などもあってなかなか興味深いものでした。時々MRさんに英語で話しかけられおどおどしつつ，海外での貴重な飲料水であるコーラ（０kcal）とホットドッグを頬張りつつ，あっという間に発表の時間が参りました。今回三好先生はARDSとDICに対するsivelestatとthrombomodulinの効果に関してのポスター発表でした。さすがは５年連続の貫禄とでもいいましょうか，私には座長の先生方の質問内容がさっぱり分かりませんでしたが，三好先生はすらすらと答えていらっしゃいました。ありきたりな表現ですが，日常臨床で指導医としてお世話になっている三好先生が，いつもより格好良く見えたものです。



まだ国内学会の総会での発表経験もない私ですが，いつかは三好先生のように国際舞台で立派な発表ができるように精進せねばと思った次第です。

観光面では，定番のサグラダ・ファミリアはもちろん，グエル公園やカタルーニャ広場，ランブラス通りなどバルセロナの街を余すところなく（？）楽しみました。食事面では，やはりpaellaでしょうか。全体的に我々（私）の舌にあう味付けのものが多く，スペイン特有のsiestaの影響で肝心な時にお店が開いていないこと以外は不便なく過ごせました。

そして，今回の渡航中の大きなイベントといえば2020年東京五輪決定のニュースでした。開催地として争っていたマドリードのあるスペインの地で，開催地がTokyoに決定したのを見届けるのは些か不思議な気分でした。同時に，日本人であることがばれたら道端で絡まれるのではないかと戦々恐々でしたが，むしろ学会場の企業ブースでMRさんに祝福してもらえるなど嬉しい経験もしました。ただ，帰国するまでかの有名な「お・も・て・な・し」の件を知らなかったのは内緒です。

このような貴重な機会を与えてくださった檜垣先生，大蔵先生，留守番や代医をしていただいた伊東先生はじめとする呼吸器グループの先生方，また不在中のサポートをしてくださった全ての関係者の皆さま，本当にありがとうございました。今回の経験を糧に，いつかは自分も後輩からrespectされるような発表ができるよう，頑張っていきたいと思います。

奨励賞受賞のことば

愛媛呼吸循環器病医学研究奨励賞（日和田賞）受賞のことば

愛媛県立中央病院　循環器内科　原　佳　世

この度は，第11回愛媛呼吸循環器病医学研究奨励賞（日和田賞）を頂き，誠にありがとうございました。昨年に引き続き２回目の挑戦でしたが，念願の日和田賞を頂くことができ，大変嬉しく，光栄に思っております。

今回の発表では，『高齢慢性心不全に対するAdaptive-Servo Ventilation療法の効果―入退院を繰り返すFrequent Flyerにおける検討―』についてご報告させて頂きました。近年，高齢化に伴い世界的に心不全患者数は増加傾向となっており，それに伴う医療費の増加も懸念されています。特に高齢心不全患者は，特有の社会的，身体的条件のため病状の悪化を招きやすく，入退院を繰り返すため，有効な対策を打ち出すことが急務となっています。一方，近年の複数のコホート研究により非侵襲的陽圧換気療法の１つであるAdaptive-Servo Ventilation（ASV）が慢性心不全患者の心機能や予後を改善することが示されています。そこで今回，入退院を繰り返す高齢慢性心不全患者にASVを導入し，その効果について検討致しました。その結果，ASV導入前後の比較では，ASV導入後，NYHA機能分類，BNPは有意に改善し，入院回数，入院延べ日数，医療コストは有意に減少しており，高齢慢性心不全患者に対しASVが有効である可能性が示唆されました。

今回このような発表の機会を与えて下さり，また熱心にご指導して下さった岡山先生，日浅先生をはじめ，多くの先生方，スタッフの方々に心から感謝申し上げます。今後も，少しでも愛媛の医療に貢献できるよう，日常診療や研究に取り組んでいきたいと思います。ありがとうございました。

関連病院業績集

愛媛医療センター

日本文原著論文

１．石丸　啓，鈴木秀明，湯汲俊吾，久保義一，山内一彦，廣岡可奈，
阿部聖裕，岩田　猛，渡部祐司
術前画像検査が有用であった回腸脂肪腫による成人腸重積症の１例
愛媛医学 31：87-90，2012.

２．石丸　啓，阿部仁郎，堀　由香，鈴木秀明，湯汲俊吾，仙波靖士，
篠原理左，渡邉　彰，阿部聖裕，岩田　猛，
Percutaneous Endoscopic Gastrostomy with Jejunal Extension（PEG-J）
による長期経管栄養中に発症した銅欠乏症の１例
静脈経腸栄養 27：941-944，2012.

３．市木　拓，渡邉　彰，植田聖也，佐藤千賀，阿部聖裕
肺Mycobacterium avium complex症治療における副作用の検討
Kekkaku 87：487-190，2012.

４．石丸　啓，鈴木秀明，湯汲俊吾，松田俊二，大門史佳，徳田桐子，
阿部聖裕，岩田　猛，山本吉浩，渡部祐司
腹腔鏡下腸瘻造設術を施行した重症心身障害者の1例
静脈経腸栄養 27：1087-1090，2012.

５．市木　拓，渡邉　彰，植田聖也，佐藤千賀，阿部聖裕
肺結核治療中に喀痰塗抹2回連続陰性化後に再陽性化がみられた症例の検討
Kekkaku 87：537-540，2012.

６．有田健一，阿部聖裕，大平徹郎，川端美智枝，小早川誠，城仙泰一郎，
松井富子，山内雅弥，山﨑正弘
慢性肺疾患の急性増悪や終末期の中での医療選択にどう対処するか
広島医学 65：662-676，2012.

７．石丸　啓，鈴木秀明，湯汲俊吾，安原美文，高橋志津江，久保義一，
山内一彦，廣岡可奈，阿部聖裕，岩田　猛
術前MDCTで絞扼部の直接所見が得られた大網裂孔ヘルニアの１例
愛媛医学 31：211-214，2012.

大阪府立成人病センター

日本文症例報告

1．刀禰央朗，塩山　渉，原田　博，向井幹夫，淡田修久，堀　正二，須原　均，
木戸高志，武田　和，高橋俊樹
胸骨原発悪性腫瘍に合併した虚血性心疾患の一例
Osaka Heart Club 6：6-10，　2012.

著書

1．向井幹夫
心停止の疫学と心停止調律
改訂版　写真と動画で分かる一次救命処置
平出　敦，小林正直　監修
学研メディカル秀潤社，東京，pp15-18，2012

2．向井幹夫
心電図とリズム
改訂版　写真と動画で分かる二次救命処置
平出　敦，小林正直　監修
学研メディカル秀潤社，東京，pp43-48，2012編集，学研 pp48-55，2012.

3．向井幹夫，高橋克仁，淡田修久
第二章　がん分子標的治療薬における副作用の疫学データと発現機序，
診断・治療の現状　第14節心臓血管障害
臨床現場での医薬品副作用の実情を踏まえた副作用軽減化新薬開発
技術情報協会　東京，pp214-222，2012.

総説

1．向井幹夫
がんにおける利尿薬の使い方
成人病と生活習慣病 42：351-355，2012.

2. 向井幹夫
がんと循環器
Osaka Heart Club 35：3-4，2012.

喜多医師会病院

英文原著論文

1．Higashi H, Saito M, Okayama H, Yoshii T, Hiasa G, Nishimura K, Inoue K, Ogimoto A, Higaki J.
Acute effects of adaptive servo ventilation on hemodynamics, coronary flow, and flow reserve in a patient with idiopathic dilated cardiomyopathy.
Can J Cardiol 8：61 1．e11-3，2012.

2．Saito M, Okayama H, Inoue K, Yoshii T, Hiasa G, Sumimoto T, Nishimura K, Ogimoto A, Higaki J.
Carotid arterial circumferential strain by two-dimensional speckle tracking: a novel parameter of arterial elasticity.
Hypertens Res 35：897-902，2012.

3．Saito M, Okayama H, Yoshii T, Higashi H, Morioka H, Hiasa G, Sumimoto T, Inaba S, Nishimura K, Inoue K, Ogimoto A, Shigematsu Y, Hamada M, Higaki J.
Clinical significance of global two-dimensional strain as a surrogate parameter of myocardial fibrosis and cardiac events in patients with hypertrophic cardiomyopathy.
Eur Heart J Cardiovasc Imaging 13：617-23，2012.

国立病院機構近畿中央胸部疾患センター

英文原著論文

1．Tsujino K, Takeda Y, Arai T, Shintani Y, Inagaki R, Saiga H, Iwasaki T, Tetsumoto S, Jin Y, Ihara S, Minami T, Suzuki M, Nagatomo I, Inoue K, Kida H, Kijima T, Ito M, Kitaichi M, Inoue Y, Tachibana I, Takeda K, Okumura M, Hemler ME, Kumanogoh A.
Tetraspanin CD151 Protects against Pulmonary Fibrosis by Maintaining Epithelial Integrity.
Am J Respir Crit Care Med 186：170-80，2012.

2．Ohashi K, Sato A, Takada T, Arai T, Kasahara Y, Hojo M, Nei T, Nakayama H, Motoi N, Urano S, Eda R, Yokoba M, Tsuchihashi Y,

Nasuhara Y, Ishii H, Ebina M, Yamaguchi E, Inoue Y, Nakata K, Tazawa R.
Reduced GM-CSF autoantibody in improved lung of autoimmune pulmonary alveolar proteinosis.
Eur Respir J 39：777-780，2012.

3．Tachibana K, Arai T, Kagawa T, Minomo S, Akira M, Kitaichi M, Inoue Y.
A Case of Combined Sarcoidosis and Usual Interstitial Pneumonia.
Internal Medicine 51：1893-7，2012.

4．Kitaichi M, Shimizu S, Tamaya M, Takaki M, Inoue Y. Pathology of Hypersensitivity Pneumonitis. Om P Sharma ed. Clinical Focus Series: Hypersensitivity Pneumonitis. aypee Brothers Medical Publishers(P)Ltd.. New Delhi, India. P 22-32，2012

5．Homma S, Azuma A, Taniguchi H, Ogura T, Mochiduki Y, Sugiyama Y, Nakata K, Yoshimura K, Takeuchi M, Kudoh S; Japan NAC Clinical Study Group, Collaborators: Kudoh S, Azuma A, Homma S, Taniguchi H, Ogura T, Mochizuki Y, Sugiyama Y, Nakata K, Munakata M, Nukiwa T, Ishii Y, Yoshimura K, Oritsu M, Yoshizawa Y, Takizawa H, Ohta K, Suzuki E, Chida K, Inoue Y, Kohno N, Nishioka Y, Hamada H, Kohno S, Suga M, Taguchi Y, Noma S, Takahashi H, Kanazawa M, Sakai F, Tomii K, Tomioka Y, Takeuchi M. Efficacy of inhaled N-acetylcysteine monotherapy in patients with early stage idiopathic pulmonary fibrosis.
Respirology 17：467-77，2012.

6．Ohashi K, Sato A, Takada T, Arai T, Nei T, Kasahara Y, Motoi N, Hojo M, Urano S, Isii H, Yokoba M, Eda R, Nakayama H, Nasuhara Y, Tsuchihashi Y, Kaneko C, Kanazawa H, Ebina M, Yamaguchi E, Kirchner J, Inoue Y, Nakata K, Tazawa R.
Direct evidence that GM-CSF inhalation improves lung clearance in pulmonary alveolar proteinosis.
Respir Med 106：284-93，2012.

和文原著論文

1．井上義一
特発性肺線維症
「今日の治療指針」2012年版/2012年版 ポケット判
医学書院，東京，pp288-8，2012.

２．杉本親寿，井上義一
慢性呼吸不全の急性増悪
THE LUNG perspectives 20：53-6，2012.
３．佐々木由美子，井上義一
肺結核後遺症と肺高血圧
呼吸器内科 21：189-92，2012.
４．井上義一
CASE 25 工務店勤務歴と肺結核の既往があり，労作時呼吸困難を訴えて来院した64歳男性.「呼吸器疾患（第２版）New専門医を目指すケース・メソッド・アプローチ」.
2012：233-44，日本医事新報社
５．井上義一
リンパ脈管筋腫症
ガイドライン外来診療 2012．2012：446-9，日経メディカル開発
６．井上義一
リンパ脈管筋腫症克服に向けて：患者とともに
呼吸と循環 60：355-62，2012.
７．井上義一
支持療法とその意義（肺移植を含む）．間質性肺炎を究める．
2012：163-7，㈱メディカルビュー社
８．大隈智尚，井上義一
健診データで困ったら 良くある検査値異常への対応策. 胸部単純Ｘ線写真.
Journal of Integrated Medicine 22：350-2，2012.
９．井上義一
サルコイドーシスと鑑別されるべき疾患 3. 特発性肺線維症. 最新医学 別冊 新しい診断と医療のABC/呼吸器３ サルコイドーシス.
2012：131-42，最新医学社
10．井上義一
呼吸器内科学 リンパ脈管筋腫症関連疾患に対するmTOR阻害剤を用いた新たな分子標的治療．医学のあゆみ 血液凝固異常研究の進歩
2012；242(2): 200-1，医歯薬出版株式会社
11．井上義一
特発性間質性肺炎（IIPs）の概念，定義と新分類 pp83-8
特発性非特異性間質性肺炎（idiopathic NSIP）pp123-31
肺胞蛋白症（pulmonary alveolar proteinosis ; PAP）pp305-11
リンパ脈管筋腫症（lymphangioleiomyomatosis ; LAM）pp318-24

びまん性肺疾患の臨床 第４版 診断・管理・治療と症例
金芳堂，京都，2012.

12. 井上義一，新井　徹
特発性リンパ球性間質性肺炎（idiopathic LIP）と未分類IIPs
びまん性肺疾患の臨床 第４版 診断・管理・治療と症例
金芳堂，京都，pp156-62，2012.

13. 辻泰　祐，杉本親寿，井上義一
undifferentiated connective tissue disease, lung dominant connective tissue disease,
その他の膠原病
びまん性肺疾患の臨床 第４版 診断・管理・治療と症例
金芳堂，京都，pp198-201，2012.

14. 佐々木由美子，北市正則，井上義一
好酸球性肺炎
びまん性肺疾患の臨床 第４版 診断・管理・治療と症例
金芳堂，京都，pp255-60，2012.

15. 杉本親寿，井上義一
ランゲルハンス細胞組織球症
びまん性肺疾患の臨床 第４版 診断・管理・治療と症例
金芳堂，京都，pp312-7，2012.

16. 竹内奈緒子，井上義一
多中心性キャッスルマン病（multicentric Castleman's disease）に合併した肺硝子様化肉芽腫（pulmonary hyalinizing granuloma）
びまん性肺疾患の臨床 第４版 診断・管理・治療と症例
金芳堂，京都，pp406-9，2012.

17. 玉舎　学，井上義一，北市正則
若年女性の慢性過敏症肺炎の一例
びまん性肺疾患の臨床 第４版 診断・管理・治療と症例
金芳堂，京都，pp459-60，2012.

18. 杉本親寿，北市正則，井上義一
種々の肺病変を認めた喫煙関連びまん性肺疾患の一例
びまん性肺疾患の臨床 第４版 診断・管理・治療と症例
金芳堂，京都，pp516-20，2012.

19. 井上義一
特発性非特異性間質性肺炎と特発性器質化肺炎 －類似点と相違点－

THE LUNG perspectives 20：249-54，2012.
20．北市正則，井上義一，新井　徹，玉舎　学，高木理博，清水重喜
膠原病における間質性肺炎の病理像の特徴ー特にUIP，NSIPを中心にしてー.
日本胸部臨床 71：779-93，2012.
21．竹内奈緒子，井上義一
Birt-Hogg-Dubé 症候群
呼吸器内科 22：:83-9，2012.
22．新井　徹，井上義一
今月の主題・間質性肺炎と臨床検査 - 各論「血清マーカー」
臨床検査 56：972-8，2012.
23．井上義一
リンパ脈筋腫症の新たな分子標的治療〔解説〕.
日本サルコイドーシス/肉芽腫性疾患学会雑誌 32：89，2012.
24．金津正樹，井上義一，杉本親寿，露口一成，庄田武司，新井　徹，審良正則，北市正則，林　清二
膠原病を伴うサルコイドーシスの３例〔症例報告〕
日本サルコイドーシス/肉芽腫性疾患学会雑誌 32：127-135，2012.
25．杉本親寿，井上義一
ランゲルハンス細胞組織球症と喫煙.
呼吸器内科 22：193-8，2012.
26．酒井史和，野間恵之，審良正則，上甲　剛，藤本公則，井上義一，村山貞之，杉山幸比古
蜂巣肺CT診断図譜：蜂巣肺CT診断の一致度に関する調査結果から
日本呼吸器学会誌 1：537-40，2012.
27．井上義一
第１回間質性肺炎／肺線維症勉強会のご報告
HOT 46：20，2012.
28．小橋保夫，香川智子，新井　徹，北市正則，井上義一
気腫合併肺線維症（CPFE）の今日的意義
日本胸部臨床 71：1176-87，2012.

県立今治病院

和文原著論文

1．大下　晃，川上秀生，河野珠美，松本有司，松岡　宏
TomTec社製4D IVUS scanを用いた３次元再構築OCT画像による血管壁性状評の試み
愛媛県立病院学会会誌 2012；46：3-5

著書

1．大下　晃，松岡　宏
血管内視鏡とOCT：血栓検出頻度の違い
心臓血管画像MOOK 5，産業開発機構，36-40，2012.

2．松岡　宏，川上秀生，大下　晃
DESと血管内視鏡
心臓血管画像MOOK 5，産業開発機構 84-89，2012.

3．川上秀生，松岡　宏
ACSと血管内視鏡
心臓血管画像MOOK 5，産業開発機構 90-94，2012.

4．松岡　宏，川上秀生，大下　晃
血管内視鏡とOCT
心臓血管画像MOOK 5，産業開発機構 95-101，2012.

5．松岡　宏
Angioscopyによる冠動脈病変評価の現状と可能性
Cardiac practice 23：91-97，2012.

県立中央病院

英文原著論文

1．Saito M, Okayama H, Yoshii T, Higashi H, Morioka H, Hiasa G, Sumimoto T, Inaba S, Nishimura K, Inoue K, Ogimoto A, Shigematsu Y, Hamada M, Higaki J.
Clinical significance of global two-dimensional strain as a surrogate parameter of myocardial fibrosis and cardiac events in patients with hypertrophic cardiomyopathy.

Eur Heart J Cardiovasc Imaging 13：617-23, 2012.
2. Inaba S, Okayama H, Funada J, Higashi H, Saito M, Yoshii T, Hiasa G, Sumimoto T, Takata Y, Nishimura K, Inoue K, Ogimoto A, Higaki J.
Impact of type 2 diabetes on serial changes in tissue characteristics of coronary plaques: an integrated backscatter intravascular ultrasound analysis.
Eur Heart J Cardiovasc Imaging 13：717-23, 2012.
3. Saito M, Okayama H, Inoue K, Yoshii T, Hiasa G, Sumimoto T, Nishimura K, Ogimoto A, Higaki J.
Carotid arterial circumferential strain by two-dimensional speckle tracking: a novel parameter of arterial elasticity.
Hypertens Res 35：897-902, 2012.
4. Ogimoto A, Okayama H, Nagai T, Suzuki J, Inoue K, Nishimura K, Shigematsu Y, Tabara Y, Miki T, Higaki J.
Impact of synergistic polymorphisms in adrenergic receptor-related genes and cardiovascular events in patients with dilated cardiomyopathy.
Circ J 76：2003-8, 2012.
5. Yamanaka T, Nakamura Y, Kawai Y, Sato S, Mineoi K, Yamada T, Hideki Okayama H, Kazatani Y, Ito H
Echo-guided pin-point compression can effectively repair pseudoaneurysms associated with catheter procedure.
World Journal of Cardiovascular Diseases 2:155-160, 2012.
6. Shizuta S, Ando K, Nobuyoshi M, Ikeda T, Yoshino H, Hiramatsu S, Kazatani Y, Yamashiro K, Okajima K, Kajiya T, Kobayashi Y, Kato T, Fujii S, Mitsudo K, Inoue K, Ito H, Haruna Y, Doi T, Nishio Y, Ozasa N, Nishiyama K, Kita T, Morimoto T, Kimura T; PREVENT-SCD Investigators.
Prognostic utility of T-wave alternans in a real-world population of patients with left ventricular dysfunction: the PREVENT-SCD study.
Clin Res Cardiol 101：89-99, 2012.
7. Inaba S, Okayama H, Kido T, Mochizuki T, Higaki J.
Natural history of a coronary plaque followed by computed tomography.
Eur Heart J Cardiovasc Imaging 13：242, 2012.
8. Higashi H, Saito M, Okayama H, Yoshii T, Hiasa G, Nishimura K, Inoue K, Ogimoto A,

Higaki J.
Acute effects of adaptive servo ventilation on hemodynamics, coronary flow, and flow reserve in a patient with idiopathic dilated cardiomyopathy.
Can J Cardiol 28：61 1．e11-3，2012.

和文原著論文

1．山中俊明，山田忠克，川上大志，清家史靖，河合勇介，佐藤澄子，
三根生和明，岡山英樹，風谷幸男
脳波検査中に心室細動を発症したBrugada型心電図波形の１症例（著論文/症例報告）
心臓 44：48-53，2012.

市立宇和島病院

英文原著論文

1．Ohshima K, Ikeda S, Kadota H, Yamane K, Izumi N, Kawazoe H, Ohshima K, Hamada M.
Impact of culprit plaque volume and composition on myocardial microcirculation following primary angioplasty in patients with ST-segment elevation myocardial infarction: virtual histology intravascular ultrasound analysis.
Int J Cardiol 2012 Apr 3.［Epub ahead of print］

2．Saito M, Okayama H, Yoshii T, Higashi H, Morioka H, Hiasa G, Simimoto T, Inaba S,
Nishimura K, Inoue K, Ogimoto A, Shigematsu Y, Hamada M, Higaki J.
Clinical significance of global two-dimensional strain as a surrogate parameter of myocardial fibrosis and cardiac events in patients with hypertrophic cardiomyopathy.
Eur Heart J Cardiovsc Imaging 13:617-623，2012.

症例

1．Uga S, Ikeda S, Matsukage S, Hamada M.
An autopsy case of acute cor pulmonale and paradoxical systemic embolization due to
tumor cell microembolism in a patient with breast cancer.
BMJ Case Reports 2012;doi：10. 1136/bcr-2012-006682

2．川副　宏，池田俊太郎，宇賀小百合，門田久紀，清水秀晃，泉　直樹，大島清孝，

濱田希臣
経皮的な手技で血管内異物除去に成功したピンチオフシンドロームの２症例
南予医学雑誌 13：20-2，2012

総説

１．濱田希臣
日本循環器学会専門医試験問題解説：
問５．肥大型閉塞性心筋症と内服薬
循環器専門医　20：390，395，2012.

２．濱田希臣
私の高血圧治療に対する考え方－臓器障害の減少のために－
八幡浜医師会雑誌 74：58-59，2012.

３．濱田希臣
東日本大震災－市立宇和島病院救護班１週間の活動報告－
南予医学雑誌 13：59-71，2012.
心臓 44：48-53，2012.

松山赤十字病院

和文原著論文

１．村上一雄，冨永福美，原田久美子，西野初美，田村純子，井上啓信，横田英介
健康管理センターにおける要二次検査受診者に対する受診勧奨と追跡把握システムの改善
松山赤十字病院医学雑誌 37：29-31，2012

日和田邦男

その他

１．日和田邦男
尿中Na,K排泄と心血管病
血圧 19：214-215，2012.

２．日和田邦男
睡眠時無呼吸と高血圧ーCPAP療法の効果
血圧 19：676-677，2012.

新入医局員

［自己紹介文］

工　藤　佳　代

本年度から第二内科腎高血圧グループに入局させて頂いた工藤佳代と申します。私は愛媛県西条市出身で，西条高校を卒業後愛媛大学医学部に入学しました。その後は大学病院で２年間研修し，４月から大学病院第二内科で働かせて頂いています。また，４月からは院にも入学しております。

私は学生時代から腎高血圧の分野に興味があり，様々な先生から熱心なご指導を頂きました。途中内科を選ぶかどうか迷ったこともありましたが，やはり学問的に興味があり，医局の雰囲気が温かい第二内科に入局を決めました。

まだまだ不慣れなことが多く，周りの先生方にご迷惑をおかけする事が多いですが，最近は少しずつ出来ることが増え充実した日々を送っています。知識も経験もまだまだ不十分ではありますが，今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

手　束　美　香

本年度より第二内科に入局し，勉強させていただいております，手束美香（てづかみか）と申します。この場をお借りして入局のご挨拶をさせていただきます。

私は，新居浜西高校を卒業後，佐賀大学医学部に入学しました。大学生活で地元を離れてみて，改めて愛媛の良さを感じました。愛媛大学医学部附属病院で２年間の研修を終え，この春より第二内科でお世話になっております。

先に医学部に進んだ姉の影響もあり，中学生の頃よりなんとなく医師へ憧れを抱いていました。医学部に進み，学生時代に循環器内科に興味を抱きました。しかし，研修医として働き始め，循環器内科のおもしろさより怖さを痛感し，私には勤まらないと思いました。他の科に進もうか悩んだ時期もありましたが，初志貫徹，循環器内科に進むことを決意いたしました。

現在，愛媛大学医学部附属病院で，循環器グループをはじめとした多くの先生方のご指導のもと，日々勉強させていただいております。まだまだ未熟者で，ご迷惑ばかりおかけしておりますが，少しでも早く成長し，愛媛の医療に貢献していきたいと思っております。今後とも，ご指導よろしくお願いいたします。

櫃　本　竜　郎

本年度より第二内科に入局致しました櫃本（ひつもと）竜郎と申します。この場をお借りして新入局のご挨拶をさせて頂きます。

私は愛媛県宇和島市で生まれ，御荘（今は合併して愛南町に）で幼少期を過ごし，その後松山に移り，小学生の塾通いが実を結び，愛光学園に入学しました。無事高校を卒業し，２年間の高松高等予備校での修行を経て，高知大学医学部に入学することができました。５年生の病棟実習の時に，心エコー検査を初めて見学し，自分もエコーがとれるようになりたいと思ったのが，循環器内科医を目指す最初のきっかけでした。研修先を決める際に，高知でそのまま研修しようとも思っていましたが，将来は愛媛の医療に貢献したいと思っていたので，それなら早い方がいいと，愛媛大学医学部付属病院での研修を選択しました。

第二内科に入局後，厳しくも暖かい上司，心から信頼できる同期に恵まれ，充実した日々を送っております。地元の同級生に「仕事楽しい？」と聞かれ，即答で「楽しい！」と答えられる今をとても幸せに思います。今後，臨床を始め，研究に論文作成にと，できることは全て貪欲にチャレンジしていきたいと思っています。檜垣先生をはじめとして諸先生方にいつも支えて頂いており，本当に感謝しております。今後ともご指導，ご鞭撻を賜りますよう，よろしくお願い申し上げます。

諸　藤　　徹

本年度より第二内科に入局し，循環器グループに所属させていただております，諸藤徹と申します。私は福岡県北九州市出身でラ・サール高校卒業，愛媛大学医学部を卒業し，２年間愛媛大学病院で研修し，第二内科に入局しました。もともとは地元に帰るつもりでしたが，第二内科の諸先生方の姿をみて愛媛で循環器内科医をしようと決めました。

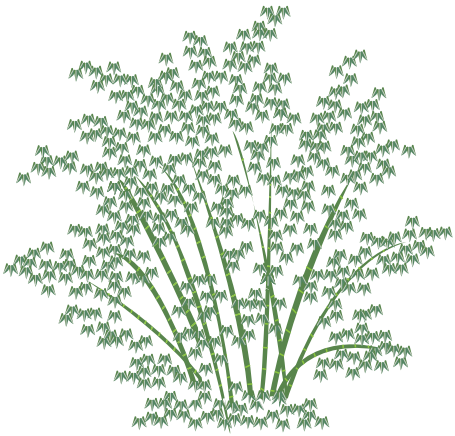
現在は指導医である井上先生をはじめ循環器グループの先生方にご指導いただき日々勉強させていただいております。今後も諸先生方にご迷惑をおかけすることがあると思いますが，ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

加　藤　高　英

本年度より愛媛大学第２内科呼吸器グループで勤務させていただいております，卒後３年目の加藤高英と申します。この場を借りて，入局の御挨拶をさせていただきます。

私は生まれも育ちも愛媛・松山で，松山東高等学校を卒業した後，愛媛大学医学部へ進学いたしました。医学部４年生までの私は漠然と内科医になろう，としか考えておりませんでしたが，５－６年生の臨床実習の際，急性期～慢性期まで広くカバーし，かつ感染症や癌，びまん性肺疾患，アレルギーなど多彩なsubspecialtyをもつ呼吸器内科学に興味をもちました。呼吸器グループの先生方には学生の頃から熱い指導と勧誘をしていただき，初期研修が始まった時点で，心の中では呼吸器内科に決めていたようなものでした。

愛媛大学医学部附属病院や関連病院での２年間の初期研修を終え，こうして呼吸器グループの一員として診療に携われている今を幸せに思うと共に，早く１人前にならなければ，という思いです。もう１年が経とうとしていると思うと焦るばかりですが，毎日少しでも成長をして，愛媛の呼吸器診療に貢献できればと考えております。また，自分に続く次世代の若い学生・研修医たちに１人でも多く興味をもってもらえるよう，勧誘の面でもしっかり頑張っていこうと思います。まだまだ未熟な私ですが，今後とも何卒宜しくお願い申し上げます。



生まれました！

「2013年８月１日に次男 丈治（じょうじ）が生まれました（左は長男の浩太朗です）。よろしくお願い致します。

海外でも活躍してくれることを母は期待してるよ，George!!」

愛媛大学大学院
循環器・呼吸器・腎高血圧内科学
飯　尾　千春子

編集後記

院長就任後の忙しい中，巻頭言を執筆いただいた鶴岡先生をはじめ，同窓会ニュースの記事を執筆いただいた先生方，ご協力いただき本当にありがとうございました。

日和田先生には近況と我が国の将来に対するお考えをご紹介いただき，興味深く読ませていただきました。本誌は同窓会の先生方から幅広く原稿を募集しています。ブログをされている先生は面白い過去ログがあれば少し手直しして本誌に再掲載してみるのはいかがでしょうか。お気軽に原稿をお寄せください。

広報委員　片山　　均，井上　勝次，岩田　　猛